

## 8. 流域の課題

これまでに取りまとめた釧路川流域の現状認識に基づき、当流域の課題について整理する。

### 1) 自然

当流域は、釧路川の流れが育んだ湿原に、国の天然記念物であるタンチョウやいまやあまりその姿が見られなくなったイトウなど、貴重な動植物が数多く生息し、ワイズユース理念に基づく自然との共生が実践されている地域である。したがって、ラムサール条約登録湿地を始めとする釧路川流域の豊かな自然環境の保全、回復が求められるところである。

### 2) 災害

釧路川流域は泥炭を主とする低平地が多く、地形的特性から浸水被害がおきやすい上、近年は地震が多発している。したがって、豊かな自然と共生しつつも、安全な生活基盤の形成を図る必要があり、洪水や地震災害対策を構築するとともに、公共事業においては、地域住民の意識を反映した事業の促進が求められるところである。

### 3) 人口

流域人口は開拓期以降、増加を続けてきたが、昭和 60 年をピークに漸減傾向となり、加えて少子高齢化が進んでいる。これは、若年層の流出によるところが大きく、人口の流出を抑制するためには、雇用の場の確保、生活環境の向上に努めるとともに、福祉社会の形成に向けた、施策の展開が求められるところである。

### 4) 産業

北海道は、地球規模に重点を置いた食料基地としての役割が期待されており、この中で釧路・根室地域には新たな国際環境に対応した酪農や水産業の展開を進め、恵まれた農水産資源を生かした地域産業の振興が求められている。したがって、広大な土地を生かした生産性の高い酪農やつくり育てる漁業を支援する施策の促進が必要とされるところで、林業や水産業、酪農が連携し、地域が一体となって河川や海の環境を保全していく必要がある。また、流域には人工林が広く分布しているが、これまでの針葉樹を主体とした植林から広葉樹を含む混交林を植林することにより、地場産業や広域観光の活性化に寄与することが考えられ、これら施策の展開が求められるところである。

### 5) 交流

釧路川流域では、湿原や湖沼などすぐれた自然とのふれあいを通じ、自然を学び、憩う場として広く海外にも知られる地域づくりを目指している。現在、体験型観光を進めるなど地域の特色を生かした観光振興や個性的な地域文化の創造が進められているところである。したがって、観光・保養など国民の多様な交流の場、アウトドア活動拠点の整備、あるいは体験型観光のネットワーク化を促進していくなどの施策の展開が求められるところである。



